

# 病害虫発生予察地区報 第1号

—— 地区注意報 ——  
病害虫名 コムギうどんこ病

## 1 情報の内容

コムギうどんこ病の発生が多く、今後さらに増加し、収量に影響する恐れがある。

## 2 対象地域

中南信地域の小麦栽培地帯

## 3 根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査で、中南信地域の小麦において、うどんこ病の発生が多かった。これは平成29年からの調査の中で最も多い発病度、発生ほ場率であり(表1、2)、一部のほ場では上位葉への進展も確認されている。
- (2) 本年は暖冬であったため、早播きの小麦や多肥ほ場を中心に過繁茂となっており、うどんこ病が蔓延しやすい状況である。
- (3) 今後、上位葉や穂へ病勢が進展すると、登熟に影響し減収する恐れがある。

表1 5月上旬巡回調査における、コムギうどんこ病の発病度(平均値)

	調査地点数	本年	令和元年	平成30年	平成29年
東信	5	0	0	0	0
南信	3	8.8	0	0	0
中信	7	7.7	1.9	0	0.8
北信	3	0	0	0	0
全調査地点の平均	—	4.4	0.8	0	0.3

表2 5月上旬巡回調査における、コムギうどんこ病の発生ほ場率

	調査地点数	本年	令和元年	平成30年	平成29年
東信	5	0	0	0	0
南信	3	100.0	0	0	0
中信	7	71.4	28.6	0	42.9
北信	3	0	0	0	0
全調査地点の発生ほ場率	—	50.0	11.1	0	16.7

#### 4 防除対策

- (1) 発生が多く、上位葉までの進展がみられるほ場では防除を実施する。特に本病に比較的弱い『ゆめきらり』では必ず防除を実施する。
- (2) 表3を参考に薬剤を選択して防除を実施する。なお、表3の薬剤は『令和2年農作物病害虫・雑草防除基準』に記載がある薬剤の中から「コムギうどんこ病」に登録があり、「コムギ赤かび病」「コムギ赤さび病」にも登録がある薬剤を選抜したので、うどんこ病との同時防除が可能である。

表3 コムギうどんこ病に登録のある主な薬剤

薬剤名	希釈倍数(倍)	散布液量(l/10a)	使用時期	使用回数	FRAC	コムギ赤かび病	コムギ赤さび病
イオウフロアブル	400	-	-	-	M2	○*	○
シルバキュアフロアブル	2,000	60~150	収穫7日前まで	2(融雪後)	3	○*	○*
チルト乳剤25	2,000	60~150	収穫3日前まで	3	3	○*	○*

※令和2年5月13日現在の農薬登録内容による（JPPネット確認）。

○：対象病害に対して登録あり（未普及）。 ○\*：対象病害に対して登録あり（普及済み）。



図1 コムギうどんこ病

長野県病害虫防除所  
塩川正則（所長）  
岩崎和之（次長） 野村義郎（担当）  
TEL：0263-53-5642  
FAX：0263-54-4508  
E-mail bojo-y@pref.nagano.lg.jp